

# 新米と地元食材の味を堪能

## 2008秋 登米の恵みを食す会

2008秋 登米の恵みを食す会（市農業振興協議会主催）が10月3日、宝江ふれあいセンターで開かれ、農業関係者ら約60人が参加しました。試食に出された米は、JAmiyaや登米管内で生産されたササニシキ、ひとめぼれ、まなむすめの環境保全米Cタイプと秋田県産あきたこまち、新潟県南魚沼産コシヒカリの5種類。

また、すべて地元食材（登米ブランド認証品）を使って作った納豆春巻や豆腐と揚げのみそ汁などの料理も振る舞われ、参加者は新米と地元食材の味を楽しみました。布施市長は「今年も安心しておいしく食べてもらえる新米ができました。皆さまには、登米市の実りの秋を食していただきたい。登米市は食材の宝庫。オール登米市産の食材で作られた料理も、ご



料理に使われた登米市産の食材



新米の味を確かめ、おいしいと思った銘柄を記入する参加者

「賞味いただきたい」と、あいさつしました。参加者は、事務局からの新米や食材の紹介を聞きながら5種類のコメを試食し、食後は、「おいしいと思ったコメに順番を付けるアンケート」に記入していました。アンケートでは、全5種類のうち、1位はササニシキ、2位にひとめぼれと、市内産のコメのほうが多いと答えた人が多

いという結果になりました。地産地消推奨店として参加した迫ふるさと物産館の後藤さち子さん（迫）と、いしこし大好きな佐藤律子さん（石越）は「どのコメもとてもおいしかった。特にひとめぼれは、冷めてもおいしいと感じた」「おかずもすべて登米市産の材料と聞いてびっくりした」と、話していました。会場には炊きたての新米の香りが漂い、香りや食感など秋の実りを満喫した一日となりました。



参加者は日常では慣れない特殊走行に悪戦苦闘

# 高齢者の事故防止に向けて

## 交通安全高齢者自転車登米地区大会

第5回交通安全高齢者自転車登米地区大会（登米地区交通安全協会・登米警察署主催）が9月24日、登米公民館で行われました。

高齢者の自転車事故が増加していることから、交通ルールやマナーの向上と自転車の安全利用を図ることを目的に開催され、登米地区交通安全協会管内5支部から6チーム20人が参加して運転技術を競いました。大会では、信号の無い交差点や横断歩道の通過などの運転方法を競う安全走行部門と、細い板の上を走る板乗りやバランスを取りながらコースを進むジグザグ走行などの運転技術を競う技能走行部門の2種目で、正しい交通マナーや技術を競いました。参加した皆さんは、慣れないコースにとまどいながらも、ゆっく

慎重にハンドルを操作していました。競技に参加した須藤徳さん（東和）は「普段何げなしに自転車に乗っていたが、今後は気を付けて運転したい」と、話していました。結果は次のとおりです（上位入賞者のみ掲載。敬称略）。  
 【団体】第1位 豊里A、第2位 登米A、第3位 登米B  
 【個人】第1位 渡邊功（豊里）、第2位 高橋正記（豊里）、第3位 宮城正光（登米）

# 暮らしの中にもっと運動を

## 第3回市民活き生き健康フェスティバル



健康器具が当たるWチャンス抽選会は大盛況でした

健全な食生活で豊かな人間性をはぐくむことを目的とした「第3回市民活き生き健康フェスティバル」が10月4日、迫体育館で開かれました。会場では、食育、環境、健康、福祉、介護、交流などの

分野ごとにパネル展示や体験コーナーが設置され、高齢者や親子連れなど約1500人が訪れました。ステージの部では、東北文化学園大学教授によるタオルを使った「いきいきとめ体操」の紹介やウオーキング講座が行われたほか、NHKテレビ・ラジオの体操指導でおなじみの輪嶋直幸さんによる「楽しみながらできる私の満点健康法」と題した記念講演も行われました。



タオルを使っの「いきいきとめ体操」

そのほか、屋外では市内の障害者授産施設などで製造された食品の展示即売、各家庭で不要となった廃食油の回収自動車の廃タイヤの有料回収などがあり、多くの人でにぎわいました。

# 「動く広告」で登米市をPR

## コメ型ナンバープレートの交付始まる



コメ型ナンバープレートをつけたバイク

原動機付自転車や小型特殊自動車などに使用する、オリジナルデザインのコメ型ナンバープレートが10月1日から交付され、同日市役所迫庁舎前で交付式が開催されました。コメ型ナンバープレートは、登米市のPRを目的にデザインを広く市民に募集し、応募のあった6点の中から投票によって決定したものです。このご当地ナンバーの交付は東北初で、全国でも3例目となっています。交付式に先立ち、9月30日に採用記念品も贈呈式が行わ

れ、布施市長は「登米市の基幹産業であるコメをモチーフにしたナンバーで、市内外に登米市をPRできるものと期待しています」と述べ、デザイン発案者の氏家英人さん（迫）にコメ型ナンバーのレプリカを贈呈しました。1日の交付式では、井林副市長が「おいしいコメの里として全国へアピールできると期待しています。ぜひ、多くの皆さんに愛用していただきたい」と、あいさつ。続いてこのデザインを発案した経緯について氏家さんが「コメの



井林副市長からナンバー交付を受ける代表者

価格の下落などで元気をなくしている農業を応援する方法として考えた。バイクなどに付けた動く広告によって、市内外に広く登米市をPRしたい」と述べました。その後、希望ナンバー申込者51人を代表して5人にナンバープレートが交付され、参加者は交付されたナンバーを付けて一斉に庁舎前を出発しました。コメ型ナンバープレートは、新規登録者のほか、旧ナンバープレートと無料で交換することが出来ます。※詳しくは、広報とめ9月号をご覧ください。